

追加情報

- ・本書では、操作設定編に追加する情報を記載しています。本機に付属の取扱説明書 操作設定編とあわせてお読みください。
- ・お使いの機種によっては、説明の画面とカメラの画面が異なる場合があります。
- ・本書では製品品番の一部（WV-）を省略している場合があります。
- ・本書は以下の機種を対象にしています。
WV-U2134J、WV-U2114J、WV-U1533J、WV-U1134J、WV-U1133J、WV-U1114J、WV-U1113J

・ソフトウェア Ver.1.02

No.	機能	対応画面（ページ）	記載ページ
1	[プラグインソフトウェア (nwcv5Ssetup.exe)] - [ライブ画スムーズ表示 (バッファリング)] の初期値を変更	基本-基本	2ページ
2	[インターネットモード] の初期値を変更	映像/映像	3ページ

・ソフトウェア Ver.1.10

No.	機能	対応画面（ページ）	記載ページ
3	「ネットワーク」のIPv4ネットワークの[接続モード]の初期値とDHCPの動作仕様を変更	ネットワーク	4ページ
4	「アラーム連動動作」に「アラーム時のSNMP送信」を追加	アラーム -アラーム連動動作	5ページ
5	SNMP v1/v2 のアクセス制限機能を強化	ネットワーク-アドバンス	6ページ
6	[SNMP] に [SNMPトラップ設定] を追加	ネットワーク-アドバンス	7ページ
7	HTTPアラーム通知機能がHTTPS通信とDigest認証に対応	アラーム-通知	9ページ
8	HTTPアラーム通知機能の認証失敗時、システムログに追加	その他-システムログ	11ページ

・ソフトウェア Ver.1.21

No.	機能	対応画面（ページ）	記載ページ
9	[SNMPトラップ設定] に「お知らせ」を追加	ネットワーク -アドバンス	12ページ
10	メール通知先の認証パスワードを拡張	ネットワーク -アドバンス	13ページ

・ソフトウェア Ver.1.50

No.	機能	対応画面（ページ）	記載ページ
11	インターネットモードのOn/Offの補足説明を設定画面に追加	映像/映像	14ページ
12	NTPテスト機能を追加	ネットワーク-アドバンス	15ページ
13	HTTPSにTLS設定を追加	ネットワーク-アドバンス	16ページ
14	MQTT機能に対応	ネットワーク-アドバンス	17ページ
15	MQTT機能の失敗時にシステムログを追加	メンテナンス-ステータス	20ページ
16	LLDP機能に対応	ネットワーク-アドバンス	21ページ

1. [プラグインソフトウェア (nwcv5Ssetup.exe)] – [ライブ画スムーズ表示 (バッファリング)] の初期値を変更

(取扱説明書 操作・設定編 本機の基本設定を行う [基本] – 基本設定を行う [基本])

[ライブ画スムーズ表示 (バッファリング)] の初期値を変更しました。

プラグインソフトウェア (nwcv5Ssetup.exe)	自動インストール	<input type="radio"/> 許可する	<input checked="" type="radio"/> 許可しない	
	描画方式	<input type="radio"/> GDI	<input checked="" type="radio"/> Direct2D	
	デコード方式	<input type="radio"/> ソフトウェア	<input checked="" type="radio"/> ハードウェア	確認
	ライブ画スムーズ表示(バッファリング)	<input checked="" type="radio"/> On	<input type="radio"/> Off	
	ライブ画フレームスキップ表示 (PC高負荷時)	<input type="radio"/> 自動	<input checked="" type="radio"/> 手動	
	コントラスト強調表示 (RGB:0-255)	<input checked="" type="radio"/> On	<input type="radio"/> Off	
	ダウンロード	実行		

• [プラグインソフトウェア (nwcv5Ssetup.exe)] – [ライブ画スムーズ表示 (バッファリング)]

表示用プラグインソフトウェアで本機の画像を表示する際の設定を行います。

On : 本機の画像を一時的に PC に蓄積し、より滑らかに表示します。

Off : 本機の画像を PC に蓄積せず、リアルタイムに表示します。

初期設定 : Off

お知らせ

画像が滑らかに表示されない場合は、Onに設定してください。

2. [インターネットモード] の初期値を変更

(取扱説明書 操作・設定編 画像に関する設定を行う [映像] -ストリームに関する設定を行う [映像])

[インターネットモード] の初期値を変更しました。

ストリーム(1)	
ストリーム配信	<input type="radio"/> On <input checked="" type="radio"/> Off
インターネットモード	<input type="radio"/> On <input checked="" type="radio"/> Off

• [インターネットモード]

H.265画像をインターネット経由で配信する場合に選択します。ブロードバンドルーターの設定をJPEG画像配信時と同じ設定のままですトリームを配信することができます。

On : HTTPポートを使用してH.265画像を配信します。HTTPポート番号の設定については [HTTPポート番号] をお読みください。

Off : UDPポートを使用してH.265画像を配信します。

初期設定 : On

お知らせ

- 「On」の場合、配信方式は「ユニキャスト(ポート番号設定:オート)」に制限されます。
- 「On」の場合、ストリームの画像が表示されるまでに数秒かかります。
- 「On」の場合、本機に同時にアクセスするユーザー数などによっては、ストリームの画像が表示されない場合があります。
- 「On」の場合、IPv4アクセスのみに制限されます。

3. 「ネットワーク」のIPv4ネットワークの[接続モード]の初期値とDHCPの動作仕様を変更

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク])

–ネットワークを設定する [ネットワーク])

「ネットワーク」のIPv4ネットワークの [接続モード] の初期値とDHCPの動作仕様を変更しました。

The screenshot shows a network configuration page with two tabs: 'ネットワーク' (Network) and 'アドバンス' (Advanced). Under the 'IPv4ネットワーク' (IPv4 Network) section, the '接続モード' (Connection Mode) dropdown menu is highlighted with a red box and is currently set to 'DHCP'. Below this, there are input fields for IP address (192.168.0.10), subnet mask (255.255.255.0), default gateway (192.168.0.1), and DNS servers (Auto/Manual). The 'Auto' radio button is selected for DNS.

IPv4ネットワーク	
接続モード	DHCP
IPアドレス(IPv4)	192 . 168 . 0 . 10
サブネットマスク	255 . 255 . 255 . 0
デフォルトゲートウェイ	192 . 168 . 0 . 1
DNS	<input checked="" type="radio"/> Auto <input type="radio"/> Manual
プライマリーサーバーアドレス	0 . 0 . 0 . 0
セカンダリーサーバーアドレス	0 . 0 . 0 . 0

IPv4ネットワーク

• [接続モード]

IPアドレスの設定方法を選択します。

固定IP : IPアドレスを「IPアドレス(IPv4)」に入力して設定します。

DHCP : DHCP機能を使用してIPアドレスを設定します。

DHCPサーバーからIPアドレスを取得できない場合は、IPアドレスを192.168.0.10に設定します。

その後、DHCPサーバーからIPアドレスを取得した場合には、そのIPアドレスに変更します。

自動設定(AutoIP) : DHCP機能を使用してIPアドレスを設定します。DHCPサーバーが見つからない場合は、自動でIPアドレスを設定します。

自動設定(おまかせ) : DHCP機能を利用してネットワークアドレス情報を参照し、使用していないIPアドレスを固定IPアドレスとしてカメラへ設定します。設定されるIPアドレスはサブネットマスクの範囲内でカメラが自動で決定します。DHCPサーバーが見つからない場合は、IPアドレスを192.168.0.10に設定します。

初期設定 : DHCP

4. 「アラーム連動動作」に「アラーム時のSNMP送信」を追加

(取扱説明書 操作・設定編 アラーム設定を行う [アラーム])

– アラーム連動動作に関する設定を行う

アラーム連動動作に関する設定に[アラーム時のSNMP送信]を追加しました。

「SNMP設定へ」をクリックすると、アラーム発生時のSNMP送信に関する設定画面が別ウインドウで表示されます。(→ 「6. [SNMP] に [SNMPトラップ設定] を追加」)

アラーム連動動作	
アラーム時のメール送信	メール設定へ
独自アラーム通知	独自アラーム通知設定へ
HTTPアラーム通知	HTTPアラーム通知設定へ
アラーム時のSNMP送信	SNMP設定へ

5. SNMP v1/v2 のアクセス制限機能を強化

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク])

– ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] – SNMPを設定する)

カメラがリクエストを受け付けるSNMPマネージャーのアドレス範囲設定を追加しました。

ネットワーク		アドバンス	
SMTP(メール) NTP UPnP HTTPS DDNS SNMP QoS			
SNMP エージェント 設定			
SNMPバージョン		SNMPv1/v2 ▼	
SNMPv1/v2	コミュニティ名	<input type="text"/>	
	マネージャーアドレス	<input type="text"/>	
SNMPv3	ユーザー名(1~32文字)	<input type="text"/>	
	認証方式	<input type="radio"/> MD5	<input type="radio"/> SHA1
	暗号化方式	<input type="radio"/> DES	<input type="radio"/> AES
	パスワード(8~16文字)	<input type="text"/>	

• [マネージャーアドレス]

SNMPバージョンがv1、v2の時、リクエストを許可するSNMPマネージャーのIPアドレスを入力します。空白の場合は、すべてのIPアドレスからのリクエストを許可します。

お知らせ

- 「IPアドレス/サブネットのマスク長」を入力すると、サブネット単位でリクエストを許可するSNMPマネージャーのIPアドレスを制限できます。
例えば、「192.168.0.1/24」と入力した場合は、「192.168.0.1」～「192.168.0.254」のSNMPマネージャーのリクエストが許可されます。

入力可能文字数：0~128文字

入力可能文字：半角英数字、半角記号「:」「.」「/」

初期設定：空欄

6. [SNMP] に [SNMPトラップ設定] を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク])

– ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] – SNMPを設定する)

SNMPに関する設定に [SNMPトラップ設定] を追加しました。
アラーム発生時のSNMPトラップ通知に関する設定を行います。

SNMP トラップ 設定		<input checked="" type="radio"/> On	<input type="radio"/> Off
通知先	アドレス	<input type="text"/>	
	ポート	<input type="text" value="162"/> (1-65535)	
SNMPv2c	コミュニティ名	<input type="text"/>	
トラップ通知設定		有効/無効	通知文字列
SNMP汎用トラップ	<input type="checkbox"/> coldStart		<input type="text" value="cold start"/>
	<input type="checkbox"/> linkUp		<input type="text" value="linkup"/>
	<input type="checkbox"/> authenticationFailure		<input type="text" value="auth error"/>
アラーム	<input type="checkbox"/> コマンドアラーム		<input type="text" value="cmd"/>

• [SNMPトラップ設定]

SNMP トラップ通知の On/ Off を設定します。

初期値: Off

• [通知先] – [アドレス]

SNMP トラップ通知の通知先のアドレスを入力します。

入力可能文字数: 0~128 文字

入力可能文字: 半角英数字、半角記号「:」 「.」

初期設定: 空欄

• [通知先] – [ポート]

SNMP トラップ通知の通知先のポート番号を入力します。

設定可能ポート番号: 1~65535

初期設定: 162

以下のポート番号は、本機で使用していますので設定できません。

20、21、23、25、42、53、67、68、69、80、110、123、161、443、554、995、10669、10670、59000~61000

• [SNMPv2c] – [コミュニティ名]

SNMP トラップ通知の通知先のコミュニティ名を入力します。

入力可能文字数: 0~32 文字

入力不可文字: 全角

初期設定: 空欄

重要

- SNMP トラップ通知機能を使用する場合は、必ずコミュニティ名を入力してください。
コミュニティ名が空欄の場合は、SNMP トラップ通知機能を使用できません。

- **【SNMP汎用トラップ】 - 【coldStart】 - 【有効／無効】**
 チェックボックスにチェックを入れた場合、カメラが起動したときに、トラップ（SNMPv2-MIB::coldStart）を通知します。
初期設定：チェック無し（無効）
- **【SNMP汎用トラップ】 - 【coldStart】 - 【通知文字列】**
 本機が起動したときのトラップを拡張して通知する場合、その文字列を設定します。
入力可能文字数：0～32 文字
入力不可文字：全角
初期設定：cold start
- **【SNMP汎用トラップ】 - 【linkUP】 - 【有効／無効】**
 チェックボックスにチェックを入れた場合、本機がリンクアップしたときに、トラップ（SNMPv2-MIB::linkup）を通知します。
初期設定：チェック無し（無効）
- **【SNMP汎用トラップ】 - 【linkUP】 - 【通知文字列】**
 本機がリンクアップしたときのトラップを拡張して通知する場合、その文字列を設定します。
入力可能文字数：0～32 文字
入力不可文字：全角
初期設定：linkup
- **【SNMP汎用トラップ】 - 【authenticationFailure】 - 【有効／無効】**
 チェックボックスにチェックを入れた場合、SNMPの認証エラーが発生したときに、トラップ（SNMPv2-MIB::authenticationFailure）を通知します。
初期設定：チェック無し（無効）
- **【SNMP汎用トラップ】 - 【authenticationFailure】 - 【通知文字列】**
 SNMPの認証エラーが発生したときのトラップを拡張して通知する場合、その文字列を設定します。
入力可能文字数：0～32 文字
入力不可文字：全角
初期設定：auth error
- **【アラーム】 - 【コマンドアラーム】 - 【有効／無効】**
 チェックボックスにチェックを入れた場合、コマンドアラームが発生したときに、トラップを通知します。
初期設定：チェック無し（無効）
- **【アラーム】 - 【コマンドアラーム】 - 【通知文字列】**
 【コマンドアラーム】のトラップの通知に使用する文字列を設定します。
入力可能文字数：0～32 文字
入力不可文字：全角
初期設定：cmd

7. HTTPアラーム通知機能がHTTPS通信とDigest認証に対応

(取扱説明書 操作・設定編 アラーム設定を行う [アラーム])

– アラーム通知に関する設定を行う [通知] – HTTPアラーム通知について設定する)

HTTPアラーム通知機能がHTTPS通信とDigest認証に対応しました。

- **HTTPS通信** : [通知先]にhttps://と入力することで、HTTPS通信でアラーム通知を実施
- **Digest認証** : HTTPサーバーとのDigest認証に対応

HTTPアラーム通知		アラーム	
通知先 1	<input type="checkbox"/>	http:// [x]	削除
ユーザー名			
パスワード			
通知データ		/cgi-bin/comalarm.cgi?CMD=01	
通知先 2	<input type="checkbox"/>	http://	削除
ユーザー名			
パスワード			
通知データ		/cgi-bin/comalarm.cgi?CMD=01	
通知先 3	<input type="checkbox"/>	http://	削除
ユーザー名			
パスワード			
通知データ		/cgi-bin/comalarm.cgi?CMD=01	
通知先 4	<input type="checkbox"/>	http://	削除
ユーザー名			
パスワード			
通知データ		/cgi-bin/comalarm.cgi?CMD=01	
通知先 5	<input type="checkbox"/>	http://	削除
ユーザー名			
パスワード			
通知データ		/cgi-bin/comalarm.cgi?CMD=01	

設定

• [通知先 1] ~ [通知先 5]

HTTPアラーム通知するHTTPサーバーのIPアドレスまたはホスト名で設定します。通知先は5件まで設定できます。

入力可能文字 : 半角英数字、半角記号「:」「.」「_」「-」

初期設定 : http://

入力例 : http://IPアドレス:ポート番号、または、http://ホスト名:ポート番号

https://IPアドレス:ポート番号、または、https://ホスト名:ポート番号

• [ユーザー名]

HTTPサーバーにアクセスするユーザー名を入力します。

入力可能文字数 : 0~63文字

入力不可文字 : 全角、半角記号「"」「&」「:」「;」「¥」

- **[パスワード]**

HTTPサーバーにアクセスするパスワードを入力します。

入力可能文字数：0～63文字

入力不可文字：全角、半角記号「"」「&」

お知らせ

• HTTPサーバーの認証要求によりBasic認証またはDigest認証を行います。

8. HTTPアラーム通知機能の認証失敗時、システムログに追加

(取扱説明書 操作・設定編 その他－システムログ表示について)

「HTTPアラーム通知に関するエラー表示」にHTTPサーバーとのユーザー認証失敗時のエラーを追加しました。

分類	表示内容	内容詳細
HTTPアラーム通知	認証エラー	・ユーザー名・パスワードが間違っている可能性があります。 HTTPアラーム通知の設定を再確認してください。

9. [SNMPトラップ設定] に「お知らせ」を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク])

–ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] –SNMPを設定する)

[SNMPトラップ設定] に「お知らせ」を追加しました。

お知らせ

- アラーム発生時のSNMPトラップ通知を動作させるためには、アラーム動作の設定が必要です。
アラーム動作に関する設定を行うには、取扱説明書の操作・設定編の「アラーム設定を行う [アラーム]」を参照してください。

10. メール通知先の認証パスワードを拡張

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク] - ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] - メール送信について設定する)

メール通知先の認証用パスワードについて入力可能文字数を 128 文字に拡張しました。

- **【認証-パスワード】**

サーバーにアクセスするパスワードを入力します。

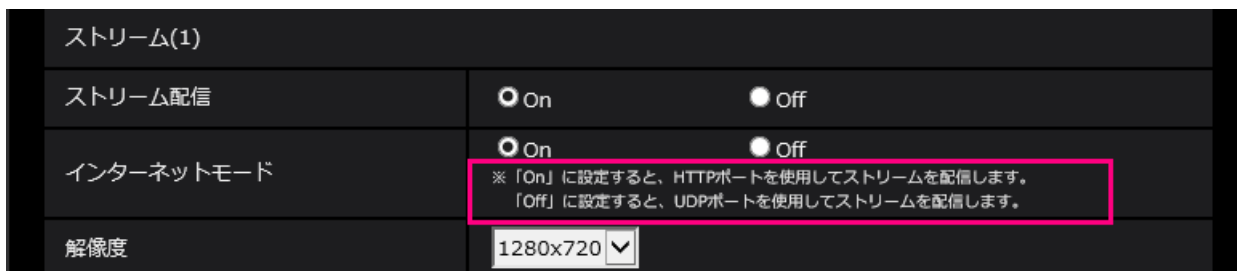
入力可能文字数：0~128 文字

入力不可文字：全角、半角記号「"」「&」

11. インターネットモードの On/Off の補足説明を設定画面に追加

(取扱説明書 操作・設定編 画像に関する設定を行う [映像]
–ストリームに関する設定を行う [映像])

インターネットモード設定の On/Off の補足説明を追記しました。



【インターネットモード】

H.265 画像をインターネット経由で配信する場合に選択します。ブロードバンドルーターの設定を JPEG 画像配信時と同じ設定のままですトリームを配信することができます。

- **On**: HTTP ポートを使用して H.265 画像を配信します。HTTP ポート番号の設定については[HTTP ポート番号]をお読みください。
- **Off**: UDP ポートを使用して H.265 画像を配信します。

初期設定 : On

お知らせ

- 「On」に設定すると、配信方式は「ユニキャスト(ポート番号設定:オート)」に制限されます。
- 「On」に設定すると、ストリームの画像が表示されるまでに数秒かかります。
- 「On」に設定すると、本機に同時にアクセスするユーザー数などによっては、ストリームの画像が表示されない場合があります。
- 「On」に設定すると、IPv4 アクセスのみに制限されます。

12. NTP テスト機能を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク]
–ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] –NTP サーバーを設定する)

NTP サーバーと通信できるかを確認する為、時刻同期のテスト機能を追加しました。

ネットワーク | アドバンス

SMTP(メール) | **NTP** | UPnP | HTTPS | DDNS | SNMP | QoS | MQTT | LLDP

NTP

時刻調整	<input type="radio"/> マニュアルセッティング <input checked="" type="radio"/> NTPサーバーに同期
NTPサーバーアドレス取得方法	Manual
NTPサーバーアドレス	入力例: 192.168.0.10
ポート番号	123 (1-65535)
時刻更新間隔	1h
NTPテスト	実行

設定

[NTP テスト]

「時刻調整」を「NTP サーバーに同期」を選択し、NTP サーバー情報を設定後に「実行」ボタンをクリックしてください。NTP サーバーと通信し、時刻同期を実施し、NTP 動作の確認をすることができます。

お知らせ

- ・NTP テストに成功すると、「NTP 時刻補正に成功しました。」を表示します。
- ・NTP テストに失敗すると、「NTP 時刻補正に失敗しました。」を表示します。
- ・「時刻調整」が「マニュアルセッティング」に設定している場合は、NTP テストの「実行」ボタンはグレー表示されます。
- ・「時刻調整」が、「NTP サーバーに同期」に設定されている場合で、NTP サーバーアドレスが設定されていない場合には、NTP テストの「実行」ボタンはグレーアウト表示されます。

13. HTTPS に TLS 設定を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク]
–ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス] –HTTPSを設定する)

HTTPS の接続方法に TLS1.1, TLS1.2, TLS1.3 の選択項目を追加しました。

ネットワーク		アドバンス	
SMTP(メール) NTP UPnP HTTPS DDNS SNMP QoS MQTT LLDP			
HTTPS			
CRT鍵生成		実行	
自己証明書	生成	実行	
	情報	未生成	確認 削除
CA証明書	署名リクエスト(CSR)生成	実行	
	CA証明書インストール	<input type="text"/>	参照... 実行
	情報	無効	確認 削除
接続方法	<input type="button" value="HTTP"/> <input type="button" value="▼"/> 接続方法を「HTTPS」に設定すると、最大配信量が16Mbpsに制限されます。	<input type="checkbox"/> TLS1.1 <input checked="" type="checkbox"/> TLS1.2 <input checked="" type="checkbox"/> TLS1.3	
HTTPSポート番号	<input type="text" value="443"/> (1-65535)		
設定			

[HTTPS-接続方法]

本機への接続方法を設定します。

HTTP : HTTPとHTTPS接続が可能になります。HTTPS接続する場合は、HTTPS接続設定を行ってください。

HTTPS : HTTPS 接続のみ可能になります。

初期設定 : HTTP

HTTPSを選択した場合に使用するTLSを選択します。

- **TLS1.1**:有効/無効を設定します。
- **TLS1.2**、**TLS1.3** : 常に有効で、無効に設定することはできません。

初期設定 : **TLS1.1**:無効、**TLS1.2**:有効、**TLS1.3**:有効

お知らせ

- HTTP選択時に、HTTPS接続するには、最初にHTTPS接続設定を行ってください。その後、HTTPに設定変更した場合でも、HTTPS接続が可能となります。

14. MQTT 機能を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク]
-ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス])

MQTT (Message Queueing Telemetry Transport) を「ネットワーク」の「アドバンス」に追加しました。アラームが発生した時に、MQTT サーバーにアラームによるイベント動作を通知することができます。

MQTT設定		<input checked="" type="radio"/> On	<input type="radio"/> Off
サーバー	アドレス	<input type="text"/>	
	ポート	<input type="text" value="8883"/>	(1-65535)
	プロトコル	MQTT over SSL	
	ユーザー名	<input type="text"/>	
	パスワード	<input type="password"/>	
ルートCA証明書	インストール	<input type="button" value="ファイルを選択"/> 選択されていません	<input type="button" value="実行"/>
	情報	無効	<input type="button" value="確認"/> <input type="button" value="削除"/>
	サーバー証明書検証	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	サーバー証明書検証が有効の場合はルートCA証明書のインストールが必要です。
通知設定		有効/無効	通知文字列
アラーム	<input checked="" type="checkbox"/> コマンドアラーム	トピック	<input type="text" value="/-PRO/NetworkCamera/Alarm/Command"/>
		ペイロード	<input type="text" value="cmd"/>
		QoS	<input type="text" value="1"/>
		<input type="checkbox"/> Retain	

[MQTT 設定]

MQTT 機能を有効にするかどうかを On/Off で設定します。

On に設定した場合、または、カメラの起動時に On の場合、設定されたサーバーに接続します。設定したアラームが発生した場合に、設定内容をサーバーに通知します。

初期設定 : Off

サーバー

[アドレス]

アラーム発生時に通知する MQTT サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

入力可能文字数 : 1~128 文字

入力可能文字 : 半角英数字、半角記号「:」「.」「_」「-」

初期設定 : なし (空白)

[ポート番号]

MQTT サーバーのポート番号を入力します。

設定可能ポート番号 : 1~65535

初期設定 : 8883

以下のポート番号は、本機で使用していますので設定できません。

20、21、23、25、42、53、67、68、69、80、110、123、161、162、443、554、995、10669、10670、

[プロトコル]

MQTT サーバーとの接続で使用するプロトコルを MQTT over SSL/MQTT over TCP から選択します。

初期設定 : MQTT over SSL

[ユーザー名]

MQTT サーバーにアクセスするユーザー名を入力します。

入力可能文字数 : 0~32 文字

入力不可文字 : 全角、半角記号「"」「&」「:」「;」「¥」

[パスワード]

MQTT サーバーにアクセスするパスワードを入力します。

入力可能文字数 : 0~32 文字

入力不可文字 : 全角、半角記号「"」「&」

ルート CA 証明書

[インストール]

証明機関から発行されたルート CA 証明書のインストールを行います

[ファイルを選択] ボタンをクリックすると表示される「ファイルを開くダイアログ」で、認証機関から発行されたルート CA 証明書のファイルを選択し、[実行] ボタンをクリックするとルート CA 証明書のインストールが実行されます。

ルート CA 証明書のデータ形式は、PEM 形式または、DER 形式になります。

[情報]

ルート CA 証明書の情報が表示されます。

無効 : ルートCA証明書がインストールされていない

ルート CA 証明書のホスト名 : インストール済みの場合に表示

[確認] ボタンをクリックすると、ルート CA 証明書の詳細を確認できます。

[削除] ボタンをクリックすると、インストールしたルート CA 証明書を削除します。

[サーバー証明書検証]

[プロトコル]に「MQTT over SSL」を選択し、[サーバー証明書検証]が「有効」の場合、SSL 接続時に登録されているルート CA 証明書を用いて、サーバー証明書の検証を行います。

初期設定 : 有効

お知らせ

・[サーバー証明書検証] が「有効」の場合は、ルート CA 証明書をインストールしてください。

通知設定

[アラーム]

MQTT サーバーに通知するアラームイベントをチェックします。

コマンドアラーム : コマンドアラームが入力された時に MQTT サーバーに通知します。

[トピック]

送信する MQTT トピック名を設定します。トピックは「/」で区切られた階層構造になっています。

入力可能文字数 : 1~128 文字

入力可能文字 : 半角英数、半角記号

入力禁止文字 : 半角記号「¥」

初期設定 :

コマンドアラーム : i-PRO/NetworkCamera/Alarm/Command

[ペイロード]

MQTT メッセージペイロードを設定します。

入力可能文字数 : 1~128 文字

入力可能文字 : 半角英数、半角記号

入力禁止文字 : 半角記号「¥」

初期設定 :

コマンドアラーム : cmd

[QoS]

QoS のレベルを 0, 1, 2 から選択します。0<1<2 と通信品質が高くなります。

0 : QoS0 でメッセージは最高 1 回配信されます。メッセージがサーバーに届くかは保証されません。

1 : QoS1 でメッセージは最低 1 回配信されます。メッセージが送信先に届くことが保証されるが重複して届く可能性があります。

2 : QoS2 でメッセージは正確に 1 回配信されます。メッセージが過不足なく 1 回のみ到着することが保証されます。

初期設定 : 1

[Retain]

最後に通知したメッセージを MQTT サーバーに保存させる場合にはチェックを入れます。

初期設定 : チェックなし

15. MQTT 機能の失敗時にシステムログを追加

(取扱説明書 操作・設定編 システムログ表示について)

MQTT 機能で異常が発生した場合のシステムログを追加しました。

MQTT に関するエラー表示

分類	表示内容	内容詳細
MQTT	<MQTT>接続エラー	サーバーとの接続に失敗、証明書検証失敗、または切断された場合(ただし設定変更によるカメラからの切断は除く)
	<MQTT>通知エラー	サーバーへの Publish が失敗した場合

16. LLDP 機能を追加

(取扱説明書 操作・設定編 ネットワークの設定 [ネットワーク])

–ネットワークの詳細設定を行う [アドバンス])

LLDP (Link Layer Discovery Protocol) を [ネットワーク] の [アドバンス] に追加しました。カメラのデバイス情報を LLDP 対応機器と送受信することで、相互運用を実現することができます。

[LLDP]

LLDP 機能および Fabric Attach を有効にするかどうかを有効/無効で設定します。

初期設定：無効

「有効」に設定すると、以下の表のチェックが付いている TLV を含む LLDP を送信します。

End Of LLDPDU TLV	Chassis ID TLV	Port ID TLV	Time To Live TLV	Port Description TLV	System Name TLV	System Description TLV	System Capability TLV	Management Address TLV	IEEE802.3 Power via MDI TLV	Fabric Attach Element TLV
✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

※PoE+電源供給に対応している機種は、「無効」に設定していても PoE+電源供給のために、以下の表のチェックが付いている TLV を含む LLDP を送信します。

End Of LLDPDU TLV	Chassis ID TLV	Port ID TLV	Time To Live TLV	Port Description TLV	System Name TLV	System Description TLV	System Capability TLV	Management Address TLV	IEEE802.3 Power via MDI TLV	Fabric Attach Element TLV
✓	✓	✓	✓						✓	

Fabric Attach

[Fabric Attach 認証鍵]

Fabric Attach 認証に使用する鍵を入力します。なお、「LLDP」が「有効」の時のみ有効です。

入力可能文字数 : 0～32 文字 (Fabric Attach 認証を行わない場合、空白にして下さい。)

入力可能文字 : 半角英数字

初期設定 : なし (空白)

お知らせ

- ・[設定]ボタンをクリックすると、本機を再起動します。再起動後、電源投入時と同様に約 2 分間操作できません。
- ・Fabric Attach で接続できる機器の情報は、当社サポートウェブサイトに記載されています。
https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services_security_support_technical-information